



ベーシストの“必須事項”を伝える
短期集中レッスン!

講師
目黒郁也



動画運動
<http://www.mi-japan.com/>

自分のベースを気持ちよく聴かせるには? また、プレイの表現力を高めるためにはどうすればよいでしょう? その答えはズバリ、“ベースを歌わせる”こと。というわけで、ベーシスト目黒郁也が“歌う”ためのテクニックを伝授! 誌面と連動した動画を観ながら、挑戦してみよう!

音楽学校MI JAPANについて

MI JAPANは世界屈指のギター・メーカー株式会社ESPを母体とし、アメリカ・ハリウッドに本校を持つ音楽学校です。ハリウッドの運営基盤と日本の音楽業界のニーズをミックスしたレッスン方針を確立し、プロとして活躍できる人材を多く輩出していることで業界から注目を集めています。

第3回 ベースで“歌う”ために必要な、細かなニュアンスづけ

INTRODUCTION

皆さんこんにちは、目黒郁也です。2015年7月号より始めましたこの連載ですが、今回で早くも3回目となりました。“ありそうでなかったおもしろい企画だ!”とのお声をいただき、非常に嬉しく思うと同時に、残念な

がら次号がラストとなるこの切なさ(笑)。今回も全力で素敵な名曲をご用意しました!! さて、誰もが聴いたことのある名曲をベース1本で奏でると、どうなるのか? 今回もなかなか難しいので、楽しみながら、苦しんでください(笑)。また、

前回もお伝えしましたが、この連載は非常に細かいニュアンスが出てくるため、僕が実際に弾いたフレーズを動画にして、誌面の譜例と連動させています。こちらもぜひご覧くださいませ。今月も、よろしくお願ひいたします!!

Chapter 01 ゆったりとしたフリー・テンポのなかで表現力を学ぼう!

今回のお題はパート・バカラックの「クローズ・トゥ・ユー」風のフレーズ。これをベース1本で弾いてみた

と思います。この曲自体はカーペンターズがカバーしたことでも大変有名ですね。参考にした曲とはキー

やコードが異なっていますが、今回もフリー・テンポで、ゆったりと弾いてみましょう☆

Intro Aadd9 A Aadd9 A Aadd9 A Aadd9 A AΔ7 AΔ7(ONE) G⁷sus4 G⁷

G⁷m7 C⁷m7 Harm. AΔ7 AΔ7(ONE) AΔ7 1. EΔ7

2. EΔ7 E7(9) B AΔ7 AΔ7(ONE) AΔ7 AΔ7(ONE) G⁷m7

C7(9) C A7(9) A(onE) AΔ7 A6 3 B7 Harm. AΔ7 AΔ7(ONE)

G⁷sus4 G⁷ G⁷m7 C⁷m7 Bm7 E7 AΔ7 AΔ7(ONE) AΔ7 EΔ7 Harm.

Chapter 02 左手のニュアンスとダイナミックな奏法で表現力アップ!

(右ストローク=R.St) (タッピング=T) (ピブラート=~~~~)

Intro Aadd9 R.St A R.St Aadd9 R.St A ラスゲアード Aadd9 A

A AΔ7 R.St AΔ7(ONE) T G⁷sus4 G⁷ G⁷m7 C⁷m7 人工ハーモニクス

B AΔ7 AΔ7(ONE) AΔ7 EΔ7 G⁷m7 T C7(9) C アルペジオ 親指ダウン・ストローク

A7(9) A(onE) AΔ7 A6 B7 ナチュラル・ハーモニクス

もはや言うまでもない!
和音とヴィブラートの大切さ!

もう説明は良いですか? いや、今回から読んでいただいている読者のために、簡単に説明します(笑)!! 僕のプレイのなかでは欠かせない、ヴィブラート! 音に伸びや色気をプラスしてくれます。これまでに説明した“横ヴィブラート”“縦ヴィブラート”を駆使して、それぞれ揺らす速度を変えて、いろんなバリエーションをつけています☆ かがりが悪く聴こえるのか、指を速く動かしたり、肘から揺らしている人もいますが、ネックを親指と押さえた指(人差し指or中指or薬指)でしっかり挟んで、親指と押さえた指の中心に1本の棒が通っているつもりで、その棒を中心に振り子のようにくネクねじわじわ動かせば、ゆっくりでも音は揺らぎますよ☆ 曲のテンポやイメージにしっかりと合わせて使しましょう。和音の使用は基本、Root / 3rd / 5thで構築し、コードによっては7thや9thなどを入れます。メロディが7thや9thにあたることもありますね。ソロ・ベースを弾くうえで、開放弦が使えただけが表現の幅が広がるので、今回は開放弦を使えるキーにしています。原曲がシンプルなコード進行である場合は、ソロ・ベースとしてアレンジしやすいですし、もともと開放弦がなくても、移調することで開放弦が使え場合もありますので、皆さんも好きな曲をソロで弾けるようアレンジしてみてください☆

細かなテクニックを使いこなせ!

前回ほど多くは使用していませんが、ハンマリング・オン、プリング・オフ、スライド、タッピング、グリッサなどの技が、今回も地味に出てきます。それぞれの説明は不要かと思いますが、“歌う”ベースを弾くためや、見た目に派手さを加えるなど、絶対に駆使したいテクニックですね。とはいえ、皆さん普段から何気なく使用していると思いますので、よりベストなタイミングでグッドなチョイスができるようにしたいものです(笑)。なお、譜面Aの1小節目の4拍目の休符に“T=タッピング”とあるのは、リズムを取るためにベースistがよくやる、右手で弦をカチッと叩くやつです(笑)。わかりますか? 動画でご確認ください。

コードを鳴らすための技
デコピン・ストローク

ついに! 単音が主体となるベースなのに、コードを鳴らす“ストローク”が登場! その名も“デコピン・ストローク”(笑)。上記の譜面上では“右ストローク”と記載しています。デコピンを想像してみてください。人差し指を親指で止めて、ピンッと指をハジクと思います。その原理を利用して、僕は中指と薬指を折り曲げて手の平(拇指球“ぼしきゅう”)につかかて、それをはずす勢いで2本の指を振り、爪側で弦をストロークをしています☆

フラメンコではおなじみの
ラスゲアード奏法を取り入れる!

最近では、ベースに取り入れる人も普通に出てきました。ラスゲアード奏法。フラメンコ奏法とも呼ばれています。エイブラハム・ラボリエルのテクニックとしても有名ですね。デコピン・ストロークと同じく、指の爪側を弦に当てて音を鳴らす奏法ですが、小指から人差し指まで、順番に指を当てていく奏法です。エイブは小指から人差し指と順番に開くようですが、僕は人差し指から順番に開いてます!! 自分にとって自然な方法が良いと思います☆

Chapter 03 まだまだある! 1曲のなかに込めるさまざまなテクニック

アルペジオや親指ダウン・ストローク、
ハーモニクスを駆使しよう!

テクニックとしては、もはや説明は不要かと思いますが、譜面回りの3、4小節目に出てくるアルペジオと親指ダウン・ストロークについて。まず、アルペジオは走りやすいので、リズムに気をつけましょう。また、ストロークは下から人差し指で弾くのか、上から親指で

弾くのかなど、場面によってやり方が変わります。ベースの指弾きの場合は、使用する指で、多少音圧(1音の太さ)が変わるので、どの指で弾くかのチョイスは普段から気にするとよいでしょう。ハーモニクスを鳴らす際、どうしても音が小さくなってしまいうという悩みをよく聞きます。ベース本体によって鳴りは異なりますが、弦を押さえる位置に気をつけて、ある程度強いピッキングをすることで改善できると思います。

OUTRODUCTION

今月も本連載をお読みいただき、ありがとうございます。回数を増やすことで、例題の内容も徐々にパワーアップしていると思います。これまで7、8月号で紹介したフレーズを含めた、これら3曲が弾ける頃には、自分の好きな曲をベース1本で弾けるようになってくるのでは? これからも、ベースの可能性をどんどん広げていきましょう☆

講師プロフィール

MI JAPAN札幌校を卒業。その後、UK ROCK BAR “BRITS BEAT CLUB”にて、約3年半修行。2011年3月に北海道より上京。フリー・ベーシストとしてサポートやセッション・ライブなどの活動を開始。2012年、亀田誠治主催の第一回亀田杯でグランプリを獲得。現在は、ソロ・ベースの追求やジャンルを問わず、さまざまなアーティスト・ミュージシャンのサポート・ベーシストとして活動中!
【ブログ】 <http://ameblo.jp/meguro-198/> 【Facebook】 <https://www.facebook.com/ikuya.meguro> 【Twitter】 @Megu_198!



ベース・ミニ・アルバム「目黒郁也と申します。」絶対発売中!! iTunesよりダウンロードが可能です。現在、売り切れ中のCDも再販を予定しております。CD再販情報やライブ出演情報は上記ブログにてお知らせいたします。なお、8月は本國太郎の3rdアルバムの制作に参加。9月6日(日)は、伊賀市文化会館さまホールにて行なわれる、竹田京右さんのコンサートに参加します。

レッスン内容を動画でチェック!



これまでの連載はYouTubeの動画と連動しています。MI JAPANのホームページからアクセスできるのでチェックしよう!

【MI JAPAN】 <http://www.mi-japan.com/>
【You Tube】 <http://www.youtube.com/user/musiciansinstituteja>